ロ 9
4227

門口 9
號 4227
巻

御家正流

須書

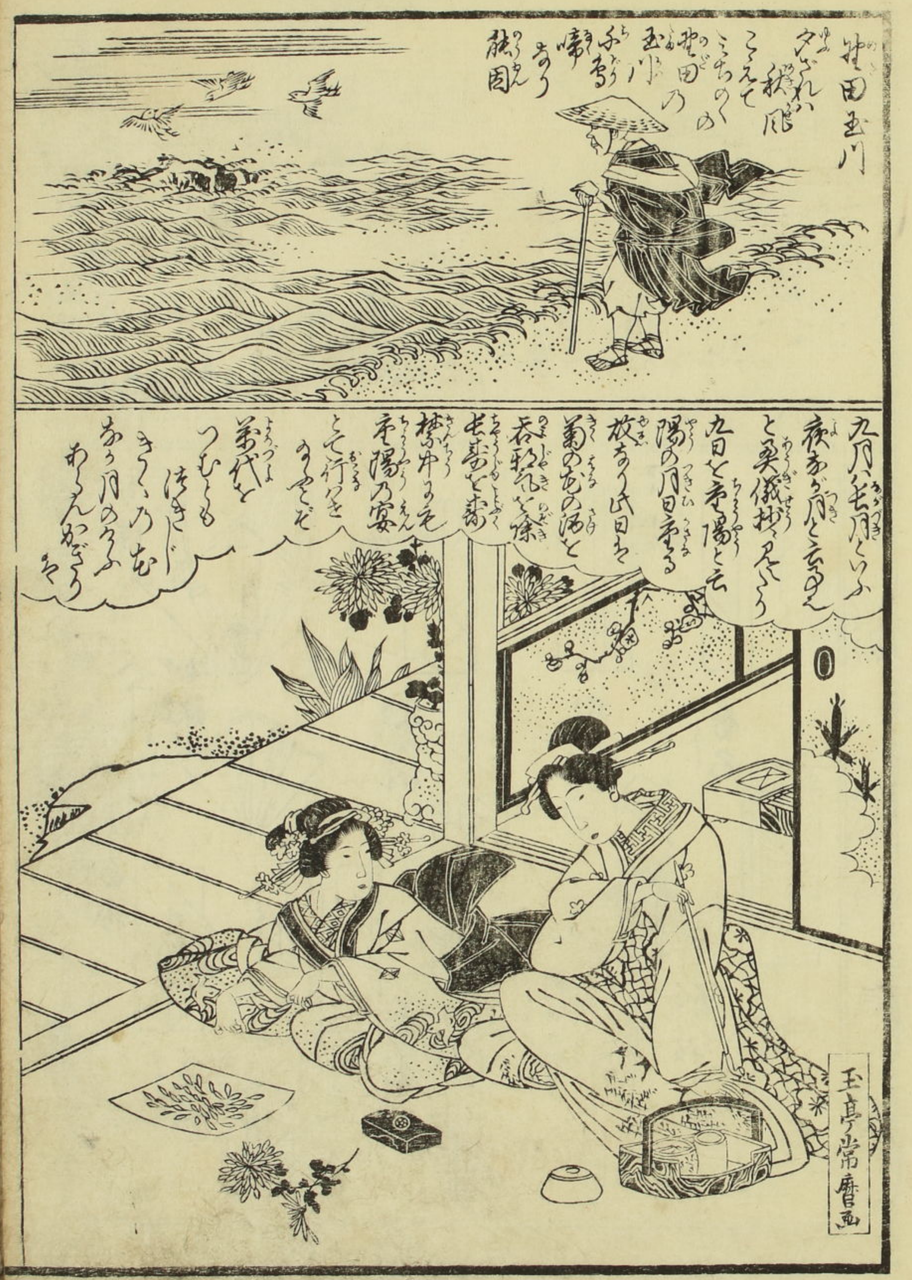
女今川操鏡

東都書林　子達房梓

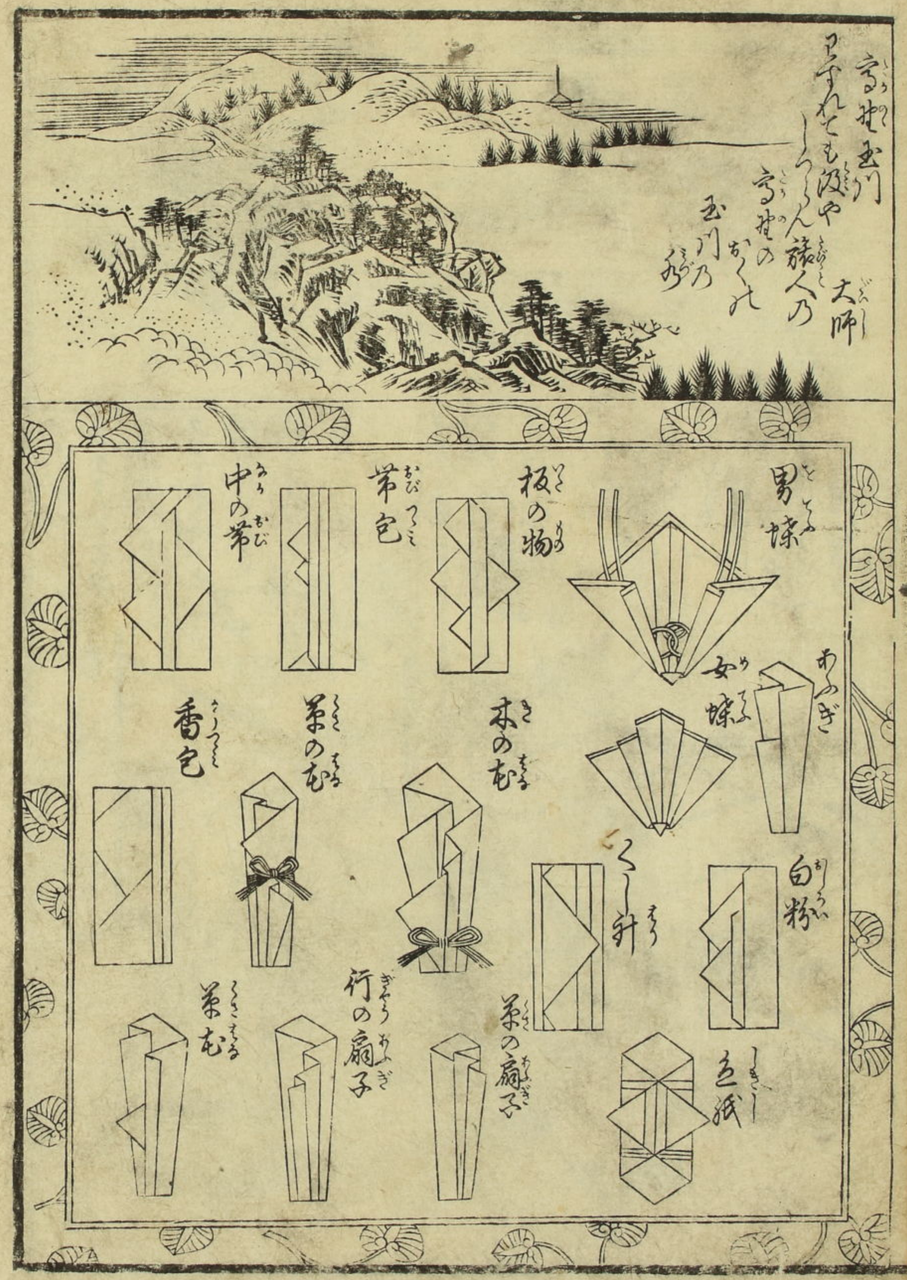
昭和50年10月9日寄
矢野久吉子
50 4223

搗衣玉川
松風の音に
秋をさそひ
きぬ
衣うつなり
玉川の里
相模
九月九日を
菊の月と云
又重陽と云
節句
菊酒
菊
菊の
菊
菊
菊

調布玉川
七月文月こゝ七日
七夕ゝも星の夕
女の二星こゝ
つゝ行早に
色糸と掛
供物とさゝ
け星祭
秋風
あゞく
とゝ
ゝれも
ゝきハ


九月長月こゝ
九日と重陽と云
陽の月日重る
故ゝ月日を
菊の花の酒と
茱萸と菊
重陽の宴
玉亭常春画

今川ながらくて
久しう琴弾む
百制御乃歌
一番はさてあげ
蜆女の唄ら



○賢女鑑

衣通姫

人皇二十代の帝允恭天皇の妃へ優て容顔美麗肌の衣より外よ透徹るゝ衣通姫と称し奉る也むかし賢徳の誉れ高く給へる中に第一の誉れ高き姫神と崇め奉る御神徳

立くり和かの
おも　出世り
ちろ　あとゝゝん
き

山の二ツ日毎に昌まバ
三日月よりも沃と成ると
王滅よ王賢徳の高き
ちゝ世ひめざてもたゝへ
きまとゝりし

一若き女王の美
色へ彩り乱る事
一小丸過とて不改級
に成て人をうらむ
かなうらざる事

光明皇后

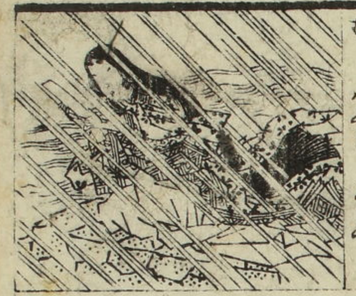
光明皇后と申奉る人皇四十八代の帝聖武天皇の御妻にて本朝随一女業の四徳書少て
扨ハ一ツ者上二十二相の四容貌をかゝ備へ
ゆひろに光明赫奕り
元より仏神を深く信
仰まゝ帝小奏し
ま〻数まりて南大寺大
寺に盧遮那仏を建
立まゝ今の世まゝ

一大事をも毎へなく
うち海人の小船る事
一又母ハ子の恩を
ハ孝の道深〻

なる事

一 球師笑歌を
たてたるを不忘る
ゆ

一 道に有ても業ゆる
者をうらみ怨む事



一 正理めて愛する
人球師むる事

一 拾ひ長武陸路
をあ陸め武見西球
数寄の好む事

清少納言

清女、巴なる元輔の女、元輔、清原の姓なれども、清女、納言と云ふ。一条院の皇后宮に仕へ、宮廷に出でゝ、宮廷の貴族に交はり、爽やかに才学世に秀でたる女なり。

一雑魚にも猴如

北山姫の人の網

を和ざ陸奥

一女乃猿利根ハ速

ひ事につ事

人を清百事

一人世ハ中云ハ公人の

の恋ハ故沢て勇を

楽しむ事

一云類通全たの事

内侍

新内侍が父、右京大夫藤原為忠の娘なり。一条院の御宇、宮中に出でゝ、後鳥羽の院に奉仕す。

女房

宮廷の女官、女房、侍女、和歌にも又巧みなり。

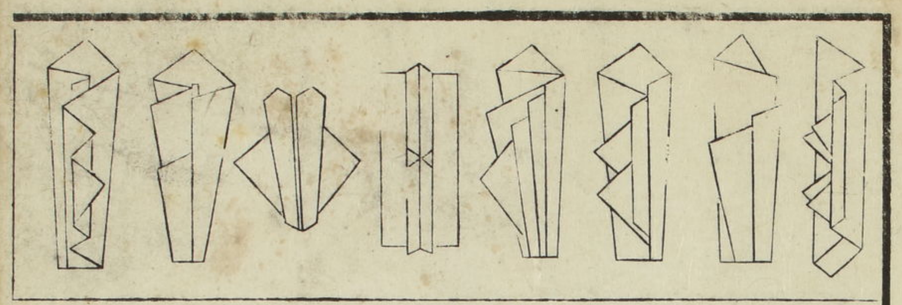
賢き人

賢き人の絵を見て、帝、感じ給ふ。

○小笠原流折形

美麗を愛し長い
見者菊事

一貴きい角形を
吉凶有る度を辨へて
勇猛好む事



一人の雅を為る者我
智ある者なるべし
一出家沙門の面
さてこれも例の
別家なる

○男女相性

○男女水姫高流恋
子の別れを不孝の
子の別れを不孝の
考小紙流子の
蔵れて寄てよ
ふ
あ
男女水火よしの子
人を〳〵刀を流る
怒りて吉次
怒りて吉次

一家の分際を考へず
盛を
ふ足乃事
下人の音曲を雑
夏石上ゆう西

○男女水火吉凶
悪しき
我世
我世

一
ひらざ
一
蜀姫小簾
人の
一
繼子
他人

○男女合せ吉凶ハ
兎角子二人ある人ハ
婚姻して親類あり
あひなれば
云の祭ごとあり
うらうらすい
ものとうしし
うらべき式

○男女あり生吉凶
三人ある人ハ田畑ハ縁
ひろく親戚と信じて吉
ひろ乎ーうん
世と
うるう
中ほうる
あるぜ
うるる

一男たる者ハ
迎ひ
吉ものを
一道
鄙

○男女ハ半吉凶ハ
二人ありて親ハ宝
ありて半吉凶縁あり石
も信じ言く人ハ知ること
石信仏なれば
なのりしく
後せ
かく
ありんと
ふぜ
ありて

る度
一人来る問我子様
婚ふ往者怒を様
音信乃事
女六社修く書に

○男女大夫よりたし
子の[illegible]
ひ絶ぜ衣食ニ
[illegible]

○男女大夫右命
[illegible]
[illegible]

○男女金津右子二人
ら二人ゆゑ衣食ニ
けれ人ゆゑ
いゝかゝ
[illegible]

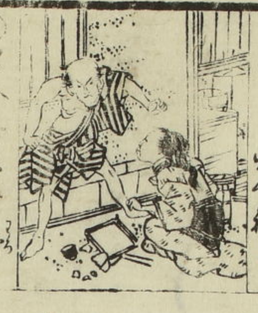
○男女あ大にゆ
衣食ニ
ハ二人の内一人ゆゑ

志ゝ正ゝ名ゝ分ゝ際ゝよろべ
う給ゝるゝにわゝるゝ人ゝ
ゝ分ゝれゝもゝるゝれゝを
ゝつゝりゝまゝるゝふゝ

○男女共ゝにゝわゝ
ゝ子ゝのゝまゝこゝあゝまゝでゝもゝそゝ
ゝちゝがゝゝゝ貧ゝふゝゝゝ邪ゝ見
なゝり衣食ゝとゝぐゝく敷
閑安ゝゝゝゝ侵ゝゝゝゝゝバ
ゝまゝちゝよゝろゝべゝ
ゝちゝと本ゝ性ゝんゝの
ゝゝゝゝゝゝゝゝ中ゝゝゝゝゝど
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

○男女合えんしてもかうかう家出してひるまうの衣食酒下人あまくひの田畑よ嫁ゑらるゝ悪事ゑらうが

○男女ゑんしてもかうかう家出して悪事をしてもあまくひの田畑よ嫁ゑらるゝ悪事ゑらうが



○男金女木

世の中に
なにもかも
つかふあり組の
ふもと
ばくはく

○男女共に
ふ一人ひとりも命綱
く貧あるべし
うへ
前よりめぐる

夫婦
あひはめく
つかふあり
やむこと
なし

○男金女木
酒食費
命なり
半る田
あるべし
いふ
日上
さ
ばくはく

○男金女金を嫁もち
まもりをいわれ
深野ちうべし福多
くへども衣食とぼ
天神と楽くへし
いろふせん
うるさいうの
ある中に
やすひあり
うれ

こゝ
なれ
海
智ひ
男子

○男金女金大吉城
宝あくうち命長く
萬まもるべし子三人
ありて長き
八ふ
いとなく
くるも
出るも
きのも
くるも
うのしうり
ありう

○男あり女木大吉衣食
ゆたかにして命長し
萬事吉

男女
てい
いとも
等
世

○男子五歳より女子三歳にて衣食を
三人ともに親より授
して人和子孫繁昌
世の中にいろ
ひとりも
人をもつくまぬ
ものなり

夏秋春冬の四季は人の
〜新小紙切事
徳〜日を重き次第
なるも幾程なく他
の家に移り迷い

○男子女子共に養育
成長之一成人
無量之べし
但一家内
のうべし
男子は家を
継ぎ
やまひの
のうく

嫁〜に行て家
風なる事は父母の
許小家百姓暮
あしきを稽ば孝行
成長之心第一

○男は女金大吉宝
あり子孫繁昌
昌し命長し既に
といのりていわく富
もとべ
ゆせうてう
くのしみ
めでたきよ
むかしの林の
ちうひかる
うん

○男は女の女は男
ふ夫婦ともに
なりかよくとも

なる
所に白粉を
師髪容を粧ふの
みて四方ゆゝみ
揉むすると人まれ
なる所志事小貪る

○女郎花の花
絮づくるを
くづぬきは
あけ
のべ
くるる
くるしみて

○女郎花の花
木性
邦満百麻芳
房稜武包米
伴良苟道頼
孤茂茅沢業

事なくして貧窮
だるを恥ずば
利なるべ富ありと
義智あるを人
味を思ふ

林負類動蓮
火性
花吉菊久雁
歳桂富玉梶
雁雲益鶴
岩虎薑山由
塩吟越深極
今

雲紳笛鶴本
滝陸樂竹鴻
蝶徒六義政
令性
華楓好鯉安

我者無我知人と
なるべし其はさろう
穂なるべ〳〵ハ亦形ひ
者こと其〳〵也紙変
鉢高なるべ〳〵ハ心の

氏赤糸門萱
富坂巻鍵峯
市虎渓花岡
星

水性
琴石松政光
楊次若七高
之若石老乎
傍晴秋種

右ハ地〳〵ハ
お性式考へ
し なり老角人の
名ハ幸たく

切西
高ぶ人を石結
夏日用の菜赤
國古城照絵
大ゝ城景色

たき人小名付りふ
てゝ我名と自
然に定るハ
ようゝ〳〵のゝしる

男女の和性に生れて
ろに年波事

男と魅する女ゆり
きの人とら うのへさる
うのへ子
女と魅する男あり
ひの人むま つちのと丑
つのとゝり
比生れ年波ろに
更妻ゆるゝ

絵入

出とゞて通て取結ぶ
屠き事なる窓
めゝ〳〵
〳〵

今川状絵

書林

略書目録

増補女年中用文案（市家流係家堂先生書）	全壱冊	絵入 書 群花百人一首（女今川入） 全壱冊
女用文宝蔵（市家流手本）	絵入 全壱冊	全 梅花百人一首 全壱冊
全 小倉殖（絵入中本）	全壱冊	小倉百人一首（吹月文案入） 絵入 全壱冊
女古状揃（絵入女教訓入）	全壱冊	自撰奇 絵入 全二冊
女今川揃蔵（絵入賢女揃入）	全壱冊	伊勢物語 全二冊
女消息往来（市家流手本 仮名付）	全壱冊	俳諧四季名寄（宇井茶山編 名花入 寸孫本） 全壱冊

江戸日本橋通壱町目
須原屋茂兵衛蔵